

東日本大震災 12 周年記念の祈り

午後2時46分の黙想

ー同じ時 想いを一つに 皆で祈りをー



ーすべての逝去者、困難のうちにある方々を覚えてー

2023年3月11日（土）午後2時15分

※ 礼拝の開始時間（午後 2 時 15 分）は目安です。礼拝が始まってから福音書朗読が終わるまでは約 10 分程度です。説教または勧話を 15 分程度としますと、午後 2 時 46 分まで約 5 分程度の黙想時間となります。

それぞれの状況に応じて、時間を調整し、この式文の全体、あるいは一部を用いて、祈りの時を共にしていただければ幸いです。

表紙写真は名取市関上日和山公園「右端石碑には昭和 8 年の三陸津波被害が刻まれている」

東日本大震災 12 周年記念の祈り

この祈りは午後 2 時 15 分から用いてもよい。

司式者は沈黙のうちに入堂する。

ともに集う

一同立つ。

司式者 父なる神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、皆さんとともに
会衆 また、あなたとともに

悔い改めの祈り

司式者 神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛してくださいました。
この神の愛に応えるため、自らを省み、ともに罪の赦しを祈りましょう
ここで一同ひざまずく。しばらく自らを省みた後、一同で唱える。

一同 憐れみ深い神よ、わたしたちは、してはならないことをし、しなければなら
ないことをせず、思いと、言葉と、行いによって、あなたと隣り人に対
して多くの罪を犯しています。どうか罪深いわたしたちをお赦しください。
新しい命に歩み、み心に従い、み栄えを現すことができますように、
救い主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

聖歌 第 412 番

主を も - と - め よ い き よ かみのたみいの

ちよかが やけやみを - てら せ ときをこえへだ

てをこえて

1	よ	び	か	ける	こ	え	あ	ま	ね	く	お	よ
2	主	の	ま	き	し	た	え	あ	ま	ね	く	く
3	主	イエ	ス	の	こ	こ	ろ	あ	ま	ね	く	ひ

Fine

ぶこえ なきさけびのたてと - なりせい
にゆたかなみのりで地をうるおしへい
にいたみとなみだをぬぐい - さりいの

Shu o motomeyo

Paul Hikari Miyazaki (1965-), Francis Renta Nishihara (1962-)

AMOS

Peter Michi Miyazaki (1968-)



(おりかえし)

主^{しゅ}を^{もと}求めよ 生^いきよ^{かみ}神^{たみ}の民
 い^{かかや}の^やち^てよ輝^{やみ}け 闇^{やみ}を^て照^てらせ
 時^{とき}を^こ超^こえ へ^こだ^こて^こを^こ超^こえて

1 呼^よび^{こえ}か^{こえ}ける^{さけ}声^{こえ} あ^おま^おね^おく^お及^おぶ
 声^{こえ}な^さき^さ叫^さび^さの^さ 盾^{たて}と^たなり
 正^{せい}義^ぎの^{ひび}響^きき 聴^きき^きと^きる^きた^きめ^きに

(おりかえし)

2 主^まの^{たね}蒔^まき^{たね}し^く種^{くに} あ^くま^くね^くく^く国^{くに}に
 豊^{ゆた}かな^{みの}実^みり^ちで 地^ちを^{うる}潤^おし
 平^{へい}和^わの^{めぐ}恵^わみ 分^わけ^わあ^わう^わた^わめ^わに

(おりかえし)

3 主^{ひと}イ^{ひと}エ^{ひと}ス^{ひと}の^{ひと}こ^{ひと}ろ^{ひと} あ^{ひと}ま^{ひと}ね^{ひと}く^{ひと}人^{ひと}に
 痛^{いた}み^{なみだ}と^{なみだ}涙^{なみだ}を^{なみだ} ぬ^さぐ^さい^さ去^さり
 い^{うた}の^{うた}ち^{うた}の^{うた}歌^{うた}に 声^あを^あ合^あわ^あせ^あて

(おりかえし)

アモ5:6 ヨハ1:4 イザ40:3 ミカ6:8 イザ55:10

とく とう
特 禱

司式者 主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司式者 祈りましょう

てんち つく ぬし しゅ いま ひがしにほんだいしんさい はっせい まん ねん ひ
天地の創り主である主よ、今わたしたちは東日本大震災の発生から満12年の日
むか とも いの つど ひがしにほんだいしんさい じしん つなみ
を迎え、共に祈るためにここに集いました。東日本大震災の地震と津波によって、
とうきょうでんりょくふくしまだいいげんしりょくはつでんしょ じ こ おお く なん う ひとびと
そして東京電力福島第一原子力発電所事故によって大きな苦難を受けた人々
いの ひ こんにち いた しんがた かんせん
のために祈ります。またその日から今日に至るまで、新型コロナウイルス感染
しょう いくた さいがい にほんこくない せかい かくち お
症をはじめ、幾多の災害が日本国内において、また世界の各地で起こりました。
なか ぎせい ひとびと いま こんなん せいかつ つづ ひとびと おも
その中で犠牲となった人々、また今なお困難な生活が続いている人々のことも思
いの なぐさ はげ ちから おお ひとびと うえ
い、祈ります。どうぞあなたの慰めと励ましのみ力がそれら多くの人々の上に
ありますように。多くの災害とともに、ロシアのウクライナ侵攻をはじめ争い、
にく た せかい そうぞう
憎しみの絶えることのないこの世界にあって、わたしたちがあなたの創造の
うつく かいふく ちい うつわ もち ちから みちび あた
美しさを回復させるため、小さな器として用いられますよう、力と導きをお与え
ください。くろし なる ひとびと とも あゆ しゅ ねが
くしみ、悩む人々と共に歩まれる主イエス・キリストによってお願い
いたします。アーメン

ともに聞く

司式者 聖書のみ言葉を聞きましょう

会衆は着席する。

第1朗読

朗読者 第1の朗読は、アモス書 第5章 6節から

6 主を求めよ、そして生きよ。

さもないと主は火のように

ヨセフの家に襲いかかり

ひ も さか
火が燃え盛っても

ベテルのためにその火を消す者はない。

12 お前たちの咎がどれほど多いか

その罪がどれほど重いか、わたしは知っている。

お前たちは正しい者に敵対し、賄賂を取り

町の門で貧しい者の訴えを退けている。

13 それゆえ、知恵ある者はこの時代に沈黙する。

まことに、これは悪い時代だ。

14 善を求めよ、悪を求めな

お前たちが生きることができるために。

そうすれば、お前たちが言うように

万軍の神なる主は

お前たちと共にいてくださるだろう。

15 悪を憎み、善を愛せよ

また、町の門で正義を貫け。

あるいは、万軍の神なる主が

ヨセフの残りの者を

憐れんでくださることもあろう。

(アモス 5 : 6,12-15)

朗読者 第1の朗読を終わります

詩 編 第90編 1-8, 12節

- 1 主よ、あなたは世々にわたって || わたしたちの住みか
- 2 山が生まれず、地と世界が造られる前から || 永遠から永遠にあなたは神
- 3 あなたは人に「元に戻れ」と仰せになり || 人は塵に戻される
- 4 あなたの目には千年も、過ぎ去った昨日のよう || 夜回りの一時にすぎない
- 5 あなたは人を夢のように消し去る || 人は朝ごとに生え変わる草のよう

- 6 朝^{あした}には萌^もえ出^でて花^{はな}を開^{ひら}くが || 夕^{ゆう}べにはしおれて枯^かれる
- 7 わたしたちはあなたの怒^{いか}りに焼^やき尽^つくされ || 激^{はげ}しい 憤^{いきどお}りに恐^{おそ}れおののく
- 8 あなたはわたしたちのとがをみ前^{まえ}に置^おき || 隠^{かく}れた罪^{つみ}をみ顔^{かお}の光^{ひかり}であらわにされる
- 12 残^{のこ}された日^ひ々^びを数^{かぞ}えることを教^{おし}え || 知^ち恵^えの心^{こころ}を与^{あた}えてください

福音書

朗読者 ヨハネによる福音書 第3章 16節から

- 16 神^{かみ}は、その独^{ひと}り子^ごをお与^{あた}えになったほどに、世^よを愛^{あい}された。独^{ひと}り子^ごを信^{しん}じる者^{もの}が一人^{ひとり}も滅^{ほろ}びないで、永^{えい}遠^{えん}の命^{いのち}を得^えるためである。17 神^{かみ}が御^み子^こを世^よに遣^{つか}わされたのは、世^よを裁^{さば}くためではなく、御^み子^こによつて世^よが救^{すく}われるためである。
- 18 御^み子^こを信^{しん}じる者^{もの}は裁^{さば}かれない。信^{しん}じない者^{もの}は既^{すで}に裁^{さば}かれている。神^{かみ}の独^{ひと}り子^ごの名^なを信^{しん}じていないからである。19 光^{ひかり}が世^よに來^きたのに、人^{ひと}々^{びと}はその行^{おこな}い^{わる}が悪^{あく}いので、光^{ひかり}よりも闇^{やみ}の方^{ほう}を好^{この}んだ。それが、もう裁^{さば}きになっている。20 悪^{あく}を行^{おこな}う者^{もの}は皆^{みな}、光^{ひかり}を憎^{にく}み、その行^{おこな}い^{あか}が明^だるみに出^でされるのを恐^{おそ}れて、光^{ひかり}の方^{ほう}に來^こないからである。21 しかし、真^{しん}理^りを行^{おこな}う者^{もの}は光^{ひかり}の方^{ほう}に來^くる。その行^{おこな}い^{かみ}が神^{かみ}に導^{みちび}かれてなされたということが、明^{あき}らかになるために。」 (ヨハネ 3:16-21)

朗読者 ヨハネによる福音書を終わります

* 勸話または説教

勸話または説教をする。

* 沈黙

午後2時46分まで沈黙のうちに待つ。

だ しょう
* 打 鐘

午後 2 時 4 6 分に鐘を鳴らす。

一同、鐘とともに立ち、1 分間、黙祷の時を持つ。

黙祷後、次の唱和を用いる。

司式者 ひがしにほんだいしんさい ぎ せいしや おぼ
東日本大震災によるすべての犠牲者を覚えます

しゅ えいえん へいあん ひとびと あた
主よ 永遠の平安をこの人々に与え

会衆 た ひかり て
絶えざるみ光をもって照らしてください

しとしんきょう
使徒信経

一同立ち、歌いまたは唱える。

わたしは、てん ち つく めし ぜんのう ちち かみ しん
天地の造り主、全能の父である神を信じます。

また、そのひとりご、わたしたちのしゅ しん せいれい
主イエス・キリストを信じます。主は聖霊によつて
やど おとめマリヤからう 生まれ、ポンテオ・ピラトのもとでくるしみを受け、十
字架につけられ、し ほうむ られ、よみにくだ みつかめ しにん
死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみが
えり、てん のぼ られました。そしてぜんのう ちち かみ みぎ ざ
全能の父である神の右に座しておられます。そ
こからしゅ い ひと し ひと さば こ
主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。

また、せいれい しん せい こうかい せい と まじ つみ ゆる からだ
聖霊を信じます。聖なる公会、聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえ
り、えいえん いのち しん
永遠の命を信じます アーメン

へい わ あいさつ
平和の挨拶

司式者 キリストはわたしたちのへい わ
平和です

会衆 わたしたちはしゅ な で あ しゅ へい わ わ あ
主のみ名によって出会い、主の平和を分かち合います

司式者 へい わ あいさつ か
平和の挨拶を交わしましょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

ささ 献げもの

ここで次の言葉を用いてもよい。あるいは他のふさわしい言葉か聖句を用いてもよい。

司式者 ^{しゅ} 主の^{すく}救いの^{わざ}み業に^{かんしゃ}感謝し、ともに^{さん}賛美を^び献^{ささ}げましょう

信施はここで集める。その間に聖歌を用いてもよい。

信施を献げるときは、以下の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

司式者 ^{しゅ} すべてのものは主の^{たまもの}賜物

一同 ^{しゅ} わたしたちは主から^う受けて主^{しゅ}に^{ささ}献^{ささ}げたのです アーメン

と も に 祈 る

司式者は次のように言う。会衆の代表者が言ってもよい。

司式者 すくぬし 救い主イエス・キリストのみ言葉とみ業と頼り、全公会のため、また世
かい 界のために、ことに ひがしにほんだいいんさい おぼ いの 東日本大震災を覚えて祈りましょう

司式者 いつく ふか かみ なぐさ しゅ いま 慈しみ深い神、慰めの主よ、今、わたしたちは ねん へ ひがしにほんだい
しんさい おぼ いの 震災を覚えて祈ります。どうか、被災地にある人、避難生活を強いられ
ひと とく にほんしやかい なか い ている人、特に日本社会の中で生きることの困難に苦しむ人、将来の希
ぼう み だ ひと ささ 望を見い出せない人を支えてください

会衆 しゅ き 主よ、お聞きください

司式者 げん しりよくはつでんしよ じ こ うしな し ぜん ひとびと せいかつ おぼ ふる
さと はな せいかつ ひと きけん さぎょう じゅう じ ひと か ぞく まも 郷を離れて生活する人、危険な作業に従事する人とその家族をお守り
ください。そして せい じ しゃかい せきにん も ひとびと ただ みち あゆ 政治と社会に責任を持つ人々に正しい道を歩ませてく
ださい

会衆 しゅ き 主よ、お聞きください

司式者 わたしたちもまた、これらの苦難をつねに おぼ
にっぽんせいこうかい ひ さいしや し えん はたら つよ 日本聖公会の被災者支援の働きを強めてください。そしてわたしたち
おも ちから あ せい じ とも あゆ つづ も 思いと力を合わせて、共に歩み続けることができるように 導いてく
ださい

会衆 しゅ き 主よ、お聞きください

司式者 いのちの みなもと しゅ ひがしにほんだいいんさい ぎ せいしや せ かい
かく ち さいがい あらそ なか いのち うしな ひとびと うで なか いだ 各地の災害と争いの中で生命を失った人々を、あなたのみ腕の中に抱
き、永遠の安らぎを与えてくださいますように

会衆 しゅ いの しゅ な ねが 主よ、これらの祈りを主イエス・キリストのみ名によってお願いいたし
ます。アーメン

しゅ いの 主の祈り

一同ひざまずく。

司式者 しゅ あわ あた
主よ、憐れみをお与えください

会衆 キリストよ、あわ あた
憐れみをお与えください

司式者 しゅ あわ あた
主よ、憐れみをお与えください

次に一同、主の祈りを歌いまたは唱える。

てん ちち
天におられるわたしたちの父よ、

な せい
み名が聖とされますように。

くに き
み国が来ますように。

てん おこな ち おこな
みこころが天に 行われるとおりに地にも 行われますように。

ひ かて きょう あた
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

つみ ひと
わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。

ゆうわく
わたしたちを誘惑におちいらせず、

あく すく
悪からお救いください。

くに ちから えいこう えいえん
国と 力 と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

かん しゃ 感謝

司式者 いの
ともに祈りましょう

すべてのものの みなもと かみ とお はな こ
源 である神よ、あなたは遠く 離れていたわたしたちを、み子と
で あ しゅ いえ まね
の出会いをとおして主の家に招いてくださいました。このあなたの愛に感謝し、
な
み名をほめたたえます。あなたからいただいたみ言葉と恵みと平和を、わたした
ちがすべての人びとと分かち合うことができますように。そして聖霊の 導きにより、
ひかり せ かい て はたら あずか
あなたの光でこの世界を照らす 働きに与らせてください。またあなたがわたし
たちに与えてくださった希望を 変わる ことなく 保たせ、すべてのものがみ名をほ
めたたえることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします
す アーメン

主 と と も に 行 く

終わりに司式者は次のように言う。

司式者 かぎ 限りない あい 恵み めぐ の かみ 神が、 よ 世 に ある ひと 人と よ 世 を さ 去った ひと 人との ぜんこうかい 全公会を、 み子
イエス・キリストによる ふっかつ 復活 と み国 の よろこ 喜 びに みちび 導 いてくださいますように
会衆 アーメン

は けん しょう わ 派遣の 唱 和

一同立って、次の唱和を用いる。

司式者 かみ 神 と ひと 人とにつか 仕えるために行きましょう
会衆 しゅ 主 の な 名 によって アーメン

ここで聖歌を用いてもよい。

聖歌 第 4 7 6 番

聖歌 476 番



この式文は、日本聖公会祈禱書別冊諸式『み言葉の礼拝』、
『日本聖公会聖歌集』（2006 年）、『聖書 日本聖書協会共
同訳』（2018 年）から抜粋したもので、日本聖公会東北
教区主教 主教 ヨハネ 吉田雅人が、救主降生 2023 年 3
月 11 日の東日本大震災 12 周年記念の祈りでの使用を許
可したものである。